

(公財)コープともしびボランティア振興財団

2013 年度事業報告

【 I 】 2013 年度事業報告

1. 2012 年度に策定した第 2 次中期計画の初年度。同時に、第 1 次中期計画で設置した運営委員会の体制も、年度当初に一新し、あらたな構成で再スタート。
2. コープこうべの CSR の一端を担う役割確認の上、財団事業の価値広報を強化。広報の機会、手法は広がったが、財政基盤を支える賛助会員、寄付者の増強につながっていないのが大きな課題。
3. 新たな運営委員会での論議をもとに、ボランティア活動助成の運用、審査体制等を見直し、より中間支援機能発揮につながるものへのシフトを始めました。同時に、年度計画策定や市民活動交流会企画もあらたな手法にチャレンジしました。

I. 助成事業を柱としながら、より中間支援機能を発揮できる事業への転換を検討し、助成団体、助成対象者との関係づくりを深め、活動の継続・発展を応援します。

1. 2013 年度ボランティア活動助成

(1) 2013 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額	助成給付率
①	福祉	高齢者	28	975,000	10.9
		障がい者	18	1,231,000	13.7
		地域住民	5	264,000	2.9
		在日外国人	1	136,000	1.5
		特定団体	2	48,000	0.5
		不特定多数	1	50,000	0.6
		施設・病院	11	225,000	3.0
		合計	66	2,929,000	36.3
②	まちづくり		12	449,000	5.0
③	文化・芸術		10	608,000	6.8
④	国際協力		5	349,000	3.9
⑤	男女共同参画		4	572,000	6.4
⑥	子ども育成		40	2,492,000	27.8
⑦	環境の保全		29	1,571,000	17.5
	合計		166	8,970,000	100.0

(2)新規申請説明会の実施

2. 市民活動交流会

2013 年度助成グループ・166 団体を対象に、ボランティアどうしの交流とボランティア活動助成金の交付を行う「市民活動交流会」を下記の要領で開催しました。

● 開催内容

1. 日時 2013 年 5 月 7 日（火） 13：00～16：00

2. 場所 コープこうべ 生活文化センター 2F ホール

3. 開催の主旨

- ① コープこうべ内外、活動エリア、活動分野を超えたボランティアどうしの交流を通じた活動の活性化
- ② 第 2 次中期計画の柱でもある「地域とのかかわり」を既存活動の中から再認識いただく機会と場の提供
- ③ 2013 年度ボランティア活動助成金の交付

4. プログラム

ミニ講演：「地域にかかわることの面白さやきっかけづくり」

講師：松原 永季（一級建築士、スタジオ・カタリスト代表）

交流タイム： ワールドカフェ方式での交流

財団DVD「ともしびをかかげて ～共にみとめあい 生きる明日へ～」上映

2013 年度ボランティア活動助成金交付

5. 参加者：230 名

2013 年度助成グループ（166 団体） 招待者（25 名）

2. 市民力を高めるボランティアコーディネート実践のための調査研究助成

(1)2013 年度調査研究助成

この助成制度は、ボランティアな活動を地域に広げ、進化させるには、活動者だけでなく活動を幅広くコーディネートできる人材がキーになるという問題意識から「活動への助成」に加え「人を育てる助成」として 2006 年度にスタートしました。今年度は、4 名に助成を行いました。

3. 活動者、活動支援者の育成と啓発

(1)セルフヘルプグループ学習会

2007 年度からすすめてきた第 1 次中期計画の中では、当事者（課題を抱える人）を中心に据えるセルフヘルプグループの活動をより多くの人に知らせ、その社会的意義の理解者を増やし、支援する取組みを行ってきました。

（特活）ひょうごセルフヘルプ支援センターに協力いただくとともに、地域福祉の観点からの学びを、財団理事の藤井博志（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部教授）にご協力いただきました。

日時	講師	対象 参加人数	内容
5月13日	中田 智恵海 ひょうごセルフヘルプ支援センター代表	コープ活動サポートセンター 福祉・子育て担当者 21名	セルフヘルプとは何か、なぜ必要なのか
7月1日	藤井 博志 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授	組合員活動にかかわるコープこうべ役職員 55名	地域福祉におけるセルフヘルプグループの役割と生協がかかわる意義
8月19日	中田 智恵海 セルフヘルプグループとして 西脇市認知症介護の会 デモクラティックスクール「まっくろくろすけ」	コープ活動サポートセンター 福祉・子育て担当者 27名	当事者の活動、思いを知り、セルフヘルプグループへの理解を深める
1月27日	中田 智恵海 ひょうごセルフヘルプ支援センター代表	コープ活動サポートセンター 福祉・子育て担当者 16名	セルフヘルプグループ学習の振り返り、社会的役割と定義の確認、コープ活動サポートセンターの業務にどのように活かすのかを考える

(2) 地域をつなぐボランティアコーディネート報告会

昨年度の調査研究助成を受け、その後、成果を活かして新たな団体を立ち上げたり、地域で活躍している人たちの現在の活動内容や問題意識を聞き、交流を深める公開報告会を開催し、この助成が培ってきた成果を地域に還元しました。

日時：2013年7月11日(木) 13:30~16:30

場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室 (参加費無料)

参加者：30名

(3) 研修事業

今年度は、高齢化している活動を次世代に引き継ぐための講座や活動を活発化させるための講座、調査研究助成を活用した講座を行いました。

研修テーマ・内容 講師名	時期、参加人数
傾聴ボランティアフォローアップ講座 ----- 聴き方のバージョンアップとしての演習、傾聴ボランティア活動をする上での課題を共有し、解決へと導く ----- 関西学院大学 人間福祉学部 准教授 川島 恵美	5月24日・6月7日 参加者 16名

<p>傾聴ボランティア 2 回コース講座</p> <p>傾聴ボランティア活動の基本を学ぶ。 ロールプレイ中心に具体的な言葉がけやワークを行う</p> <p>西長洲荘 介護支援専門員 栗野 真造</p>	<p>7月4日・12日 参加者 50名</p>
<p>傾聴ボランティア講座 ～はなして、きいて、よりそって～</p> <p>より良い聴き方とコミュニケーションの在り方と傾聴ボランティア活動の基本を学ぶ</p> <p>西長洲荘 介護支援専門員 栗野 真造</p>	<p>7月5日 参加者 32名</p>
<p>バリデーション基本講座</p> <p>認知症の高齢者のコミュニケーション技法</p> <p>関西福祉科学大学 社会福祉学部 准教授 都村 尚子</p>	<p>7月6日 参加者 51名</p>
<p>傾聴講座 ～気持ちがあほぐれる話の聞き方・しゃべり方～</p> <p>ボランティア活動をより円滑にするために傾聴の技術を学び、取り入れる</p> <p>夢こらぼ 主宰 松尾 やよい</p>	<p>7月18日 参加者 24名</p>
<p>読み聞かせ・紙芝居ボランティア交流会</p> <p>グループ間交流、作品の展示、発表 絵本選びと活動スタイルの情報交換</p> <p>神戸ライトセンター運営協議会 代表 海士 美雪</p>	<p>10月8日 参加者 24名</p>
<p>活動継承講座 ～手作り絵本を作ってみませんか～</p> <p>高齢化するメンバーの技術を次世代に継承する 新しい活動者の獲得をめざす</p> <p>助成グループ「布の絵本青い鳥」</p>	<p>10月2日・16日・23日 11月6日 参加者 11名</p>
<p>ブログ作成講座</p> <p>助成グループの活動を広め、知ってもらう。財団のホームページとリンクさせ、広報できるようにする</p> <p>阪神 SITA クラブ</p>	<p>10月24日・31日 参加者 6グループ</p>

<p>気づいてください！親子のSOS！！</p> <p>児童虐待の背景を知り、虐待してしまう親への偏見ではなく、地域で寄り添う理解者としての視点を獲得する</p> <p>(特活)チャイルド・リソース・センター 代表 宮口 智恵氏</p>	<p>11月11日 参加者 21名</p>
<p>活動継承講座 ～布の絵本を作って遊ばせよう！～ 宝塚市、西宮市内の特別支援学級などへ布おもちゃを制作し寄贈している活動の次世代メンバー育成をめざす</p> <p>助成グループ「グループつくし」</p>	<p>3月3日・17日(月) 参加者 7名</p>

(4)職員研修受け入れと連携強化

Ⅱ. 財団の価値を伝える広報の強化をはかり、理解者、共感者、支援者を広げます。

1. 財団DVDの制作と活用

当財団が支援している地域のさまざまな活動や人の、地域での貢献や価値を伝え、当財団の事業への理解者、共感者を増やすことを目的に、コープこうべ広報室の協力を得て、DVD（上映時間 約15分）を制作しました。

2. コープこうべ機関紙、ラジオ番組とのコラボレーション

当財団がボランティア活動助成で支援している地域のボランティアグループや、調査研究助成で支援しているNPOスタッフなどの活動を通じて、当財団事業への理解を深めていただくことを目的に、今年度は、コープこうべの広報媒体を活用しての広報を強化しました。

コープこうべの機関紙「きょうどう」（毎月第1火曜日発行、発行部数60万部）では、「ともしび財団が応援する・地域のちから」と題した連載を4月からスタート。助成先の「人」に焦点をあて、発達障がい、DV被害者支援、高齢者の居場所づくり、不登校、プロボノなど、さまざまな地域課題やテーマに意欲的に取り組む姿を紹介しました。

また、ラジオ関西の番組では、「ともしび 朝ボラ情報！」と題して、毎週火曜日の朝、当財団の助成グループが出演して活動を紹介。

Ⅲ. 公益財団としての寄付税制優遇の活用や収入のしくみ化によって財政の安定をめざします。

1. 募金、寄付の「贈呈式」

5月に開催した市民活動交流会で、コープこうべのしくみを活用した集中募金、宅配でのポイントによる募金について、コープこうべから財団への贈呈式を行いました。

2. 募金、寄付のしくみ化

(1) コープともしびボランティア募金(集中募金)

今年度より、取り組み期間がこれまでの10-11月から、10月のみとなり、募金事務局をコープこうべ組合員活動部に位置づけて、コープこうべ宅配事業ならびに店舗、職員への呼びかけを行って取り組みました。

(2) 宅配事業でのポイントによる募金(めーむポイント募金)

宅配事業利用組合員を対象とし、通年で実施する募金です。2012年8月から制度がスタートしました。

(3) 夕食サポート事業との連携強化

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」より、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただき、2013年度は639,280円を寄付いただきました。

3. 基本財産運用

財産運用規則にのっとり、適正に運用をすすめました。